

足柄上医師会
創立70周年記念誌投稿予定原稿



私は以前より(平成1~2年頃)より在宅ターミナルケアに力を入れてきましたがその頃と現在とはその様相が変わってきているように感じます。

その頃雑誌に投稿したものを見付けましたので、要旨を掲載致します。現在と様子が違うのがお分かりいただけると思います。

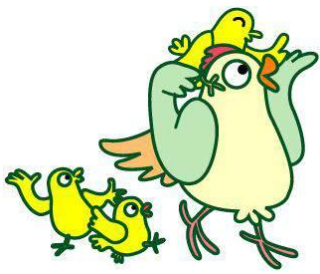
進行がんの患者さんを発見した時は、できるだけ侵襲の少ないバイパス手術などで、最低の条件を確保して、抗がん剤を使わないという方法をとると、術後3ヶ月~6ヶ月位は調子の良い状態を保つことができると、その後、緩和ケアをスムーズに運びます。

患者さんにとって自分のなれ親しんだ環境の中でターミナルを迎えることは、だれもが望んでいることで、睡眠、食事など気ままだにできることも大きな恵みです。

家族や友人と濃厚なコミュニケーションがとれることが重要な意味を持っています。

私は最近あまり厳しい例のケアは経験していなかったのですが、一昨年近所に胃がん術後、化学療法後の患者さんが病院から退院したという方のケアを依頼されました。

緩和ケアの薬剤もやっと飲めるかどうかという状態でした。2日後死亡しました。1日か2日では主治医になっても患者さんに通じたかどうかでした。病院死を減らしたい為だけの退院であったように感じました。周囲の先生方に聴くと最近はこの例が多いとのことでした。こういう短時間のケアではお互いに心を通わせ合うなどとてもできません、残念です。



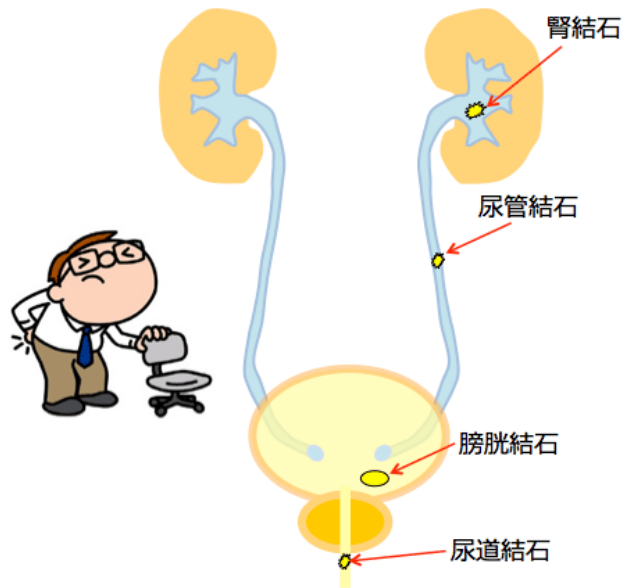
痛い尿路結石症



2月の終わり頃、午前の診療時間中、下腹部痛で耐えられない風情の患者さんが駆け込んできました。

付近で作業中、急に痛んできたという。

超音波検査と尿検査より尿路結石症と診断した。



鎮痛剤を投与して上病院に送った所、尿管結石と診断された。尿管結石症は、腎臓にできた石が尿管に落ちたため起こったことで、突然起こる腹痛としては、最も痛い病気ですが生命には別状のないものです。この患者さんも病院で検査、結果尿管出口付近に石があると入院せず帰宅しました。



院長

3月・4月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜

E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
☆受け付けからのお願い
月初めには必ず保険証を受付にお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。
☆編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。